



想い | つくる | 伝える



[ F u u d ]  
2017  
春号  
—季刊—

# 御菓子さまの

長岡藩の質朴な土風を表すように、華美と対極にあるシンプルな砂糖菓子『越乃雪』。240年の間、越乃雪本舗 大和屋(長岡市)が当時と同じ材料・製法で途切れることなく作りつづける類い稀な和菓子である。

がんばろう ● ニッポン!

Take Free  
ご自由にお持ちください

ひときわの旅情をのせて。

[新潟市東区] 文 / 本望典子

にいがた  
めぐり  
vol. 5

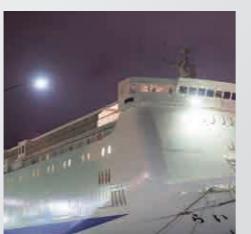


ここに来たのは何年ぶりだろうか。家族旅行の行き先が北海道に決まったとき、6人のうち2人が「船で行こう」と言い出した。その時は「飛行機の方が短時間で移動できるのに、どうして」と現地滞在時間が少なくなることをぼやきながら、しぶしぶ船旅につきあう恰好となったのだ。

しかし、そんばやきは一瞬にして消え去った。船内は、レストランあり、カフェあり、ラウンジも広々。当時まだ小学生だった娘は、ビデオシアターでの映画に大喜び。さらなる感激は、展望大浴場だ。窓の外に広がる日本海の大平原を見ながらゆったりとお湯につかる…こんな贅沢な気分を旅の移動で味わえるなんて、船旅を選択した2人に心から感謝しなければならない。帰りの船では、見晴らしの良いデッキでジンギスカン三昧。北海道の余韻を最後まで楽しむことができた、実に楽しい旅行だった。

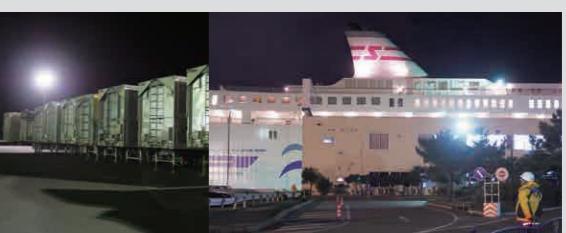
今、そのときの船を目の前にしている娘は間もなく高校を卒業する。見知らぬ人に手を振り返しながら、「この人たちはこれからどんなシーンを、思い出育むのだろう」と想いを馳せた。旅はいつも、どんなときも季節や街の風情を感じさせてくれるものだが、港は何か特別なものがある気がする。

みなとまち新潟の歴史と風格すら感じる夜。もしかすると、北前船の時代から人々の想いは何も変わっていないのかもしれない。遠方から運ばれてくるモノや文化にときめき、地元の誇りをまた他の港へ。一抹の物悲しさを振り切るような時間の流れ方も、おそらく港独特のものだ



ろう。インターネットで簡単に情報が手に入る時代が来ても、こうして大きな船を見送る瞬間は、過去と未来が繋がるような不思議な感覚にとらわれる。

また船に乗りたい、と強く思った。家族が家族でいられる時間は、そう長くはないのだから。



新潟フェリーターミナル  
(新日本海フェリー)

住所 / 新潟市東区古湊町 2番20号 山の下埠頭  
概要 / 新潟→小樽、新潟→秋田、新潟→苫小牧への運航(寄港便・直行便)、トラックや乗用車の輸送を中心に、多様な船内設備を設けて旅客サービスも充実。「らいっく／ゆうかり」、「あざれあ／しらかば」に加え、2017年3月より「ららんだあ」が新潟→小樽航路に就航。



ターミナルの施設自体は、各出港日にレストランを営業(夜、または朝の便が中心となる出港に合わせた時間帯)。施設後方に巨大な船舶が寄港する姿は圧巻である。

ふうど 2017春号 vol.36

企画編集 ふうど編集室

発行人 高橋 佑

取材編集 浅川綾子

写真 佐々木聰

デザイン 波部佳則

題字 小林 翠

編集後記

『お殿さまの御菓子』を入口に、たっぷり歴史散歩をしてみました。商人の町に生まれ育ったものには縁遠かった武家社会の心の有り様を、ほんの少しだけ理解できた気がします。今号の長岡藩主牧野家17代当主・牧野忠昌氏の取材に協力していただいた長岡市立科学博物館の若い職員の誰もが、忠昌氏を「お殿さま」と呼ぶ様子は、親しみのなかにも厳然とした礼節があり、とても爽やかでした。佐藤守氏の長岡藩初代・忠成を「ご初代さま」と恭しく呼ぶ様子にも心温まるものがありました。来年2018年は明治政府誕生から150年の節目を迎えますが、城下町では江戸時代がまだまだ地続きにすること肌で感じました。同時に衆人の尊敬に値するお殿さまとの家臣たちを頂いた城下町の人びとが羨ましくもありました。なぜなら人として生きる道を体現している手本が、間近にあったからです。(渋川)

発行所

ふうど編集室 株式会社タカヨシ

■本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800  
■東京支社 / 〒110-0005 東京都台東区上野1丁目13-3 MYビル2F TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884  
■仙台営業所 / 〒981-0952 宮城県仙台市青葉区中山5丁目7-32 TEL (022) 303-1225 FAX (022) 303-6830  
■名古屋営業所 / 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社1丁目79 第六名昭ビル6A TEL (052) 753-8080 FAX (052) 753-8081  
■オフィシャルサイト / [コトナガレ!](http://www.takayosi.co.jp) http://www.takayosi.co.jp

「ふうど」はここに置いてあります

【新潟市】<中央区>ANALクラウンプラザホテル新潟、駅前オフィスNII GATA、NSG学びステーション、NST、NPO法人 Made in 越後、上古町商店街、旧小瀬家住宅、県立自然科學館、砂丘館、佐藤商会、佐渡汽船ターミナル、田中屋本店など工房、朱鷺メッセ、新潟NPO協会、新潟絵屋、新潟 加島屋本店、新潟県政記念館、新潟県庁広報展示室、新潟県民会館、新潟国際情報大学、新潟中央キャンパス、新潟市民活動支援センター、新潟市生涯学習センター、新潟市食育・花育センター、新潟市中央図書館、新潟商工会議所、新潟市歴史博物館、新潟ユニゾンプラザ、ピアBandai、ホテルリタリア軒、ホテル日航新潟、りゅーひび新潟市民芸術文化会館、<東区>桑名病院、パティスリーカフェオレラン、<西区>新潟ふるさと村、新潟市附属図書館、佐渡荘、<南区>カコギャラリーやまむらし、川内自動車、新津鉄道資料館、  
【新潟市】加治川地区公民館、紫雲寺地区公民館、新潟市生涯学習センター、新潟市民文化会館、新潟市立図書館、農浦地区公民館【聖籠町】聖籠福音の湯ざぶーん【村上市】イヨボヤ会館、村上市觀光協會  
【長岡市】新潟県立歴史博物館、長岡市立科学博物館、長岡大学、長岡市立中央図書館、長岡西病院、やまこし復興交流館おたらる【燕市】分水ビターサービスセンター  
【出雲崎町】越後出雲崎天領の里【湯沢町】吾国觀光館 越後湯沢温泉【南魚沼市】桜井  
【佐渡市】SADO伝統文化と環境福祉の専門学校、ホテル大佐渡  
【東京都】<渋谷区>表参道・新潟駅ネスバズ <中央区>ブリッジにいがた <千代田区>新潟市東京事務所  
エコプレス  
バイインダー

RICE INK

この印刷物は環境にやさしい  
米ぬか油を使用したライスインクで  
印刷しています。



# 四百年のタカラ

ぶれない二百五十年間

つくる

氣風の作られ方

## お殿さまとお菓子

それは、いきなり歴史の現場に紛れこんだ小一時間だった。目の前は長岡藩主だった牧野家の十七代当主牧野忠昌氏。世が世であれば、目を合わせることさえ許されないお殿さまである。真っすぐ向けてくる澄んだ瞳は温かく、永々と長岡や新潟湊などを治めてきた大名の血脉がくつきりと記されていた。その隣に牧野公奉賛会の佐藤守副会長が、さっきまで戦さ場にいたような厳とした気配を漂わせて座る。初めて間近に浴びる武家の気をはねのけ、ます『越乃雪』の話をお殿さまに聞いた。

「小さい頃、よく食べました。その頃は京都に住んでいました、父が年に何回か長岡に行くことがあり、地元の方から戴いた、紅屋重正の『大手饅頭』や長命堂の『飴もなか』などと一緒に『越乃雪』をお土産として持つて帰つてくるんです。とくに戦後、甘いものが少ない時期、越乃雪は甘くて、ほんとうに美味しかったことを記憶しています。その当時は、このお菓子と牧野家との関わりを知らず、ただ美味しいから食べてまし

た」。そうか、ロングセラーの秘訣は、味だった。普遍性を持った味は時空を超える。あらためて大和屋庄左衛門の優れた味覚と、それに気づいた長岡藩九代藩主忠精の慧眼に唸つてしまつた。では九代藩主とは、どんな人だったのか。

長岡藩は、七万四千石の譜代大名である。地方のそれほど大大名ではないのに、九代藩主忠精公から三代続いて幕政に参加し、幕府の重要な職務に就いている。とくに忠精公は英君として中央でも認められ、治世六十六年の間、京都所司代、老中などを歴任し、外国船が日本近海に次々に押寄せるなか、幕府の中心で対応にあたる。後に『寛政の遺老』として、その名を轟かせた。この英明さが越乃雪の製造販売を推奨し、自ら徳川幕府をはじめ参勤交代で上京する全国の大名や公家にお土産として持参し広めたのかもしれない。

「常在戦場」つて何?

長岡藩の特徴的な考え方を表す言葉に『常在戦場』がありますが、その意味を教えてください。

「戦国時代の牧野家は三河の牛久保城城主として、今川氏や松平氏など間でしぶと生き残ってきた一

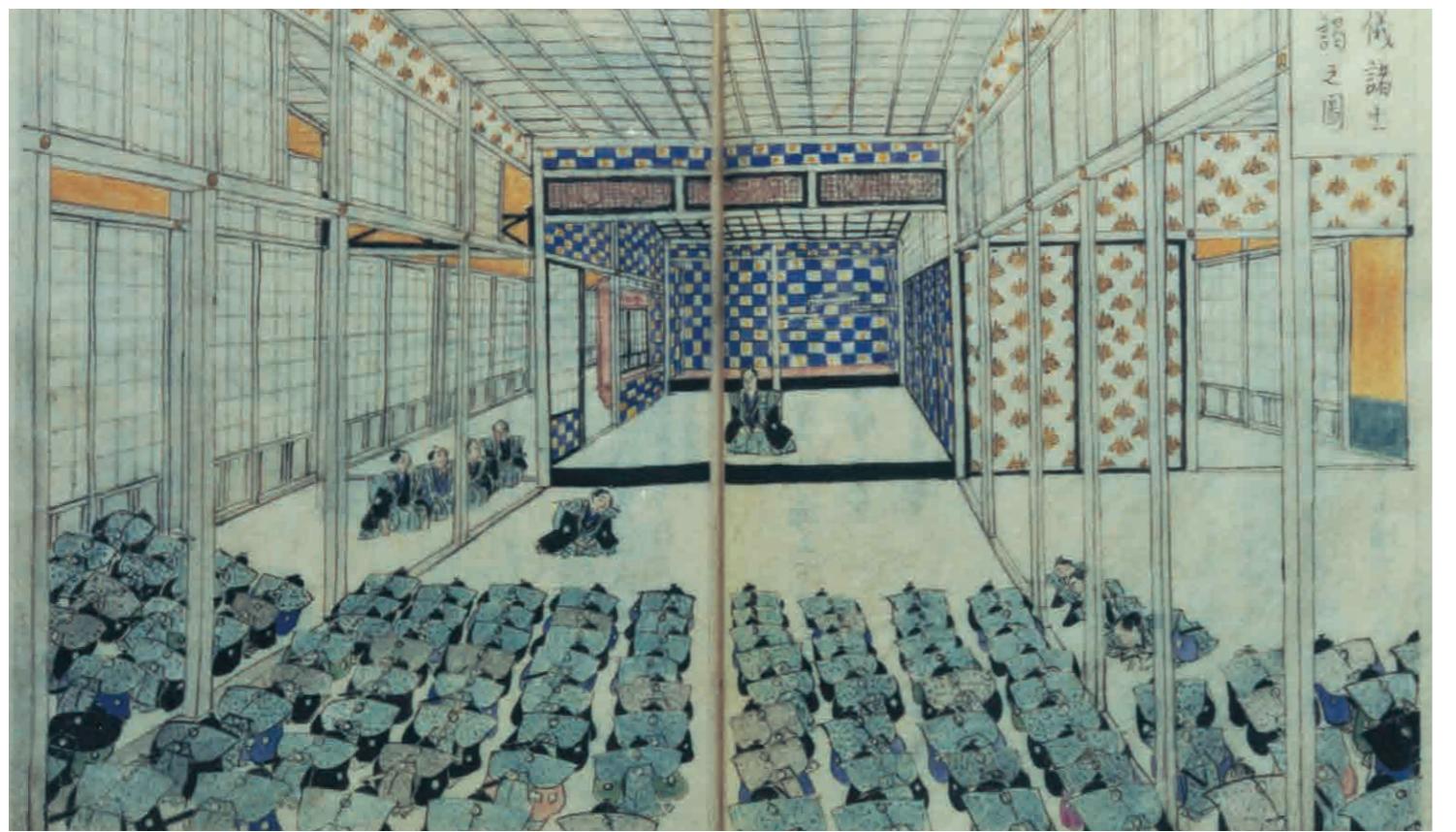
族です。この明日をも知れない戦乱期に、培われた精神が『常在戦場』です。三河以来の壁書十八条のなかに、この言葉があり、代々牧家の家訓。昭和生まれの私は、この意味がピント来なかつたのですが、いろいろな方に教わり除々にわかつてきましたよな気がします。どんな時でも、すぐに戦さに出られるよう心身の鍛錬を怠らず、普段の生活でも戦場の環境に堪えられるように粗末な衣食で過ごしなさい、という意味。徳川家が天下を治め平穏な時代になつても、戦国武将の氣概を忘れてはいけないと、臣下に厳しく守らせました。その他、切腹の作法、座間の礼、馬上の礼、隣近所と仲良くするなどの武士として守るべき規範があり、この規則や命令は絶対でした。基本的に「上からの命令を守る」「甘えない駄目なものは、ならぬ」の一点張りです。それは武士は一般の人たちの手本になるので、いつもきちんとといなければ、いけなかつたからです。

長岡藩の宝だと思います」。確かに河井繼之助 小林虎三郎 時代は下るが山本五十六と長岡を代表する偉人は、すべて牧野家の家訓で身を固めた重臣とその子孫。この三人だけでも轟々と音を立てて流れる、人材の大河を思わせる。

## 長岡駅は長岡城本丸跡

お殿さまと家臣との関係を伝える物語がある。長岡駅である。住所

毎年12月25日、長岡城本丸の大広間の御上段に座るお殿さまに、御用納めの挨拶をする藩士たち。背面の壁の市松模様は、アオーレ長岡の外壁にデザインされている。  
(12月 岁暮御祝儀諸士一列にて拝謁の図(長岡城之面影より)久我正久所蔵)



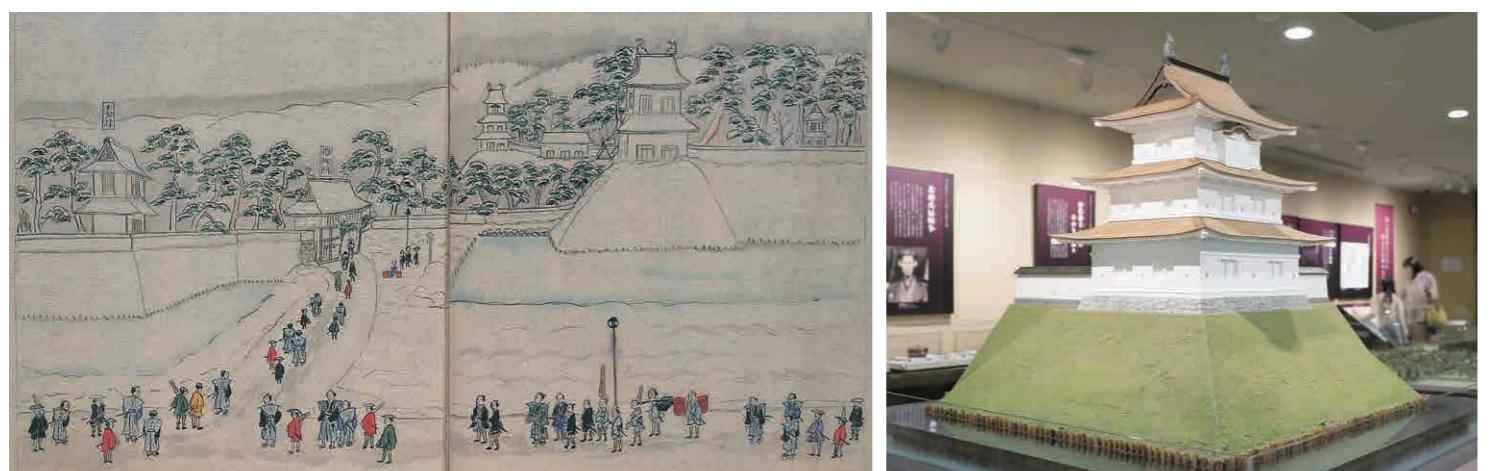
藩御用達の菓子司しか持てない御用箱。このなかにお菓子を入れてお城などに届けた(越乃雪本舗大和屋所蔵)



大広間の御上段を再現した展示の前に、初代牧野忠成公をはさんで左が牧野家十七代当主の牧野忠昌氏。右が牧野公奉賛会の佐藤守さん。



藩主牧野家の家紋「丸に三つ柏」を象った菓子型。落雁などを作る時に使用した(越乃雪本舗大和屋所蔵)



元日の朝6時ころ、城中から鳴り響く太鼓を合図に、正装した藩士が供を従え登城を始める。250年間続いた心引き締まる風景(正月 年始登城の図(長岡城之面影より)久我正久所蔵)

城下からもよく見えたという御三階櫓の復元模型。

「嘉祥のお祝い」は、承和十五年(八四八)の夏、当時流行していた疫病を憂いた仁明天皇が、ご託宣に因み年号を「嘉祥」と改元し、六月十六日に十六種類の菓子や餅を神前に供え、疫病の終息と招福を願ったことが始まりとされる。この神威が宿る菓子を食べる公卿の行事が、室町時代に戦さに懸ける武士たちの切実な願いがあった。当時流通していた宋錢・嘉定通宝が通称「嘉通」と呼ばれ、「勝つ」につながるということで武士に喜ばれ、この宋錢十六枚で十六個の菓

子がある。六月十六日の「嘉祥のお祝い」に食べる「嘉祥菓子」である。新発田藩の記録に「杉のうえにのせたお菓子をいただく」とあるようにお殿さまから下賜される式菓子である。

一方で時代に埋もれそうな式菓子がある。六月十六日の「嘉祥のお祝い」に食べる「嘉祥菓子」である。新発田藩の記録に「杉のうえにのせたお菓子をいただく」とあるようにお殿さまから下賜される式菓子である。

「嘉祥のお祝い」は、承和十五年(八四八)の夏、当時流行していた疫病を憂いた仁明天皇が、ご託宣に因み年号を「嘉祥」と改元し、六月十六日に十六種類の菓子や餅を神前に供え、疫病の終息と招福を願ったことが始まりとされる。この神威が宿る菓子を食べる公卿の行事が、室町時代に戦さに懸ける武士たちの切実な願いがあった。当時流通していた宋錢・嘉定通宝が通称「嘉通」と呼ばれ、「勝つ」につながるということで武士に喜ばれ、この宋錢十六枚で十六個の菓

子を買ひ食べるようになったという。

こうして当初、疫病退散・招福を目的で食べたお菓子に、武運長久の願いが加わり、さらに戦国時代から江戸時代へと受け継がれていく。豊臣秀吉が恒例化して大切にしたことや徳川家康が五百畳の大広間に大量のお菓子を並べ、全国の旗本や大名ひとりひとりに自ら下賜した記録が残っている。謹厳実直な武士と豪勢なお菓子の組合せは、意外な気もするが然ではない。秀吉も家康も切に天下

を取らねばならない。領民を苛めてはいけない、領民あつての藩だという藩訓があり、領民の健やかな生活を支援する藩風がありました。そのひと

地を取りあげようとしたしました。その時、城下の復興に尽力した三島億二郎などの重臣が、それはお殿さまのものだからと強行に反対し、接收を免れました。その後、北越鉄道を引こうという時、地元から駅の建設用地として城跡の一部を提供してほしいと要望され、「長岡のこれから発展になるなら」と本丸周辺の土地を提供しました。私の祖父の決断です。この、おじいさまは十五代牧野家当主忠篤氏。明治十七年(一八八四)華族に列し子爵を受けられた、初代の長岡市長である。幕府から天皇に政権が移行していく、明治維新の大混乱を当事者としてつぶさに体験している。

城はなくとも

たため。「民は國のもと、吏(武士)は民の雇い」とい、領民を苛めてはいけない、領民あつての藩だという藩訓があり、領民の健やかな生活を支援する藩風がありました。そのひと

地を取りあげようとしたしました。その時、城下の復興に尽力した三島億二郎などの重臣が、それはお殿さまのものだからと強行に反対し、接收を免れました。その後、北越鉄道を引こうと

いう時、地元から駅の建設用地として城跡の一部を提供してほしいと要

望され、「長岡のこれから発展にな

るなら」と本丸周辺の土地を提供

ました。私の祖父の決断です。この、

おじいさまは十五代牧野家当主忠篤

氏。明治十七年(一八八四)華族に列

し子爵を受けられた、初代の長岡市

長である。幕府から天皇に政権が移

行していく、明治維新の大混乱を當

事者としてつぶさに体験している。

城はなくとも

たため。「民は國のもと、吏(武士)は

民の雇い」とい、領民を苛めてはい

けない、領民あつての藩だという藩

訓があり、領民の健やかな生活を支

援する藩風がありました。そのひと

地を取りあげようとしたしました。その

時、城下の復興に尽力した三島億二

郎などの重臣が、それはお殿さまのものだからと強行に反対し、接收を免れました。その後、北越鉄道を引こうと

いう時、地元から駅の建設用地として城跡の一部を提供してほしいと要

望され、「長岡のこれから発展にな

るなら」と本丸周辺の土地を提供

ました。私の祖父の決断です。この、

おじいさまは十五代牧野家当主忠篤

氏。明治十七年(一八八四)華族に列

し子爵を受けられた、初代の長岡市

長である。幕府から天皇に政権が移

行していく、明治維新の大混乱を當

事者としてつぶさに体験している。

城はなくとも

たため。「民は國のもと、吏(武士)は

民の雇い」とい、領民を苛めてはい

けない、領民あつての藩だという藩

訓があり、領民の健やかな生活を支

援する藩風がありました。そのひと

地を取りあげようとしたしました。その

時、城下の復興に尽力した三島億二

郎などの重臣が、それはお殿さまのものだからと強行に反対し、接收を免れました。その後、北越鉄道を引こうと

いう時、地元から駅の建設用地として城跡の一部を提供してほしいと要

望され、「長岡のこれから発展にな

るなら」と本丸周辺の土地を提供

ました。私の祖父の決断です。この、

おじいさまは十五代牧野家当主忠篤

氏。明治十七年(一八八四)華族に列

し子爵を受けられた、初代の長岡市

長である。幕府から天皇に政権が移

行していく、明治維新の大混乱を當

事者としてつぶさに体験している。

城はなくとも

たため。「民は國のもと、吏(武士)は

民の雇い」とい、領民を苛めてはい

けない、領民あつての藩だという藩

訓があり、領民の健やかな生活を支

援する藩風がありました。そのひと

地を取りあげようとしたしました。その

時、城下の復興に尽力した三島億二

郎などの重臣が、それはお殿さまのものだからと強行に反対し、接收を免れました。その後、北越鉄道を引こうと

いう時、地元から駅の建設用地として城跡の一部を提供してほしいと要

望され、「長岡のこれから発展にな

るなら」と本丸周辺の土地を提供

ました。私の祖父の決断です。この、

おじいさまは十五代牧野家当主忠篤

氏。明治十七年(一八八四)華族に列

し子爵を受けられた、初代の長岡市

長である。幕府から天皇に政権が移

行していく、明治維新の大混乱を當

事者としてつぶさに体験している。

城はなくとも

たため。「民は國のもと、吏(武士)は

民の雇い」とい、領民を苛めてはい

けない、領民あつての藩だという藩

訓があり、領民の健やかな生活を支

援する藩風がありました。そのひと

地を取りあげようとしたしました。その

時、城下の復興に尽力した三島億二

郎などの重臣が、それはお殿さまのものだからと強行に反対し、接收を免れました。その後、北越鉄道を引こうと

いう時、地元から駅の建設用地として城跡の一部を提供してほしいと要

望され、「長岡のこれから発展にな

るなら」と本丸周辺の土地を提供

ました。私の祖父の決断です。この、

おじいさまは十五代牧野家当主忠篤

氏。明治十七年(一八八四)華族に列

し子爵を受けられた、初代の長岡市

長である。幕府から天皇に政権が移

行していく、明治維新の大混乱を當

事者としてつぶさに体験している。

城はなくとも

たため。「民は國のもと、吏(武士)は

民の雇い」とい、領民を苛めてはい

けない、領民あつての藩だという藩

訓があり、領民の健やかな生活を支

援する藩風がありました。そのひと

地を取りあげようとしたしました。その

時、城下の復興に尽力した三島億二

郎などの重臣が、それはお殿さまのものだからと強行に反対し、接收を免れました。その後、北越鉄道を引こうと

いう時、地元から駅の建設用地として城跡の一部を提供してほしいと要

望され、「長岡のこれから発展にな

るなら」と本丸周辺の土地を提供

ました。私の祖父の決断です。この、

おじいさまは十五代牧野家当主忠篤

氏。明治十七年(一八八四)華族に列

し子爵を受けられた、初代の長岡市

長である。幕府から天皇に政権が移

行していく、明治維新の大混乱を當

事者としてつぶさに体験している。

城はなくとも

たため。「民は國のもと、吏(武士)は

民の雇い」とい、領民を苛めてはい

けない、領民あつての藩だという藩

訓があり、領民の健やかな生活を支

援する藩風がありました。そのひと

地を取りあげようとしたしました。その

時、城下の復興に尽力した三島億二

郎などの重臣が、それはお殿さまのものだからと強行に反対し、接收を免れました。その後、北越鉄道を引こうと

いう時、地元から駅の建設用地として城跡の一部を提供してほしいと要

望され、「長岡のこれから発展にな

るなら」と本丸周辺の土地を提供

ました。私の祖父の決断です。この、

おじいさまは十五代牧野家当主忠篤

氏。明治十七年(一八八四)華族に列

し子爵を受けられた、初代の長岡市

長である。幕府から天皇に政権が移

行していく、明治維新の大混乱を當

事者としてつぶさに体験している。

城はなくとも

たため。「民は國のもと、吏(武士)は

民の雇い」とい、領民を苛めてはい

けない、領民あつての藩だという藩

訓があり、領民の健やかな生活を支

援する藩風がありました。そのひと

地を取りあげようとしたしました。その

時、城下の復興に尽力した三島億二

郎などの重臣が、それはお殿さまのものだからと強行に反対し、接收を免れました。その後、北越鉄道を引こうと

いう時、地元から駅の建設用地として城跡の一部を提供してほしいと要

望され、「長岡のこれから発展にな

るなら」と本丸周辺の土地を提供